

総選挙後の岸田政権のゆくえ

政策研究大学院大学教授
飯尾潤

- *失われた現場感覚
- *総合性と抽象的思考の欠如
- *一皮むけた岸田氏
- *意外に巧みな岸田人事
- *公明抜きでは勝てない自民
- *左2割に寄った立民
- *議論が全くない国会
- *国民とやり取りが必要
- *政官それぞれの政策能力を高める
- *岸田氏に自立の兆し



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は2年ぶりになります。飯尾先生においでいただきました。1962年のお生まれで、東京大学ご卒業後、埼玉大学で教鞭を取られ、その後、現在の政策研究大学院大学に移られております。いつも政治の基本的な見方を先生にお話しただいていますが、今日は岸田政権が発足し、直後の総選挙が終わり、さて岸田政権は本格的にどこに行くのか、あるいは自民党が本当に少し変わってくるのかどうかも含めて、先生に政治の見方を教えていただきたいと思っております。

それでは飯尾先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

失われた現場感覚

飯尾 ご紹介いただきました飯尾でございます。2年ぶりということ、お招きいただいたいへんうれしく思っております。ただ、2年前に来たときを思い出すと、安倍政権があまりに続き過ぎて同じような話でもご退屈だろうと、よその国のポピュリズムの話などをして、日本も他人事ではありませんよという話をしたのですが、その後、菅政権になり、岸田政権になりました。

自民党政権が続いていますが何か雰囲気は変わってきた。やっぱり政治の力って大きいと思うのは、世の中の雰囲気は少し変わってきた。これがどうなっていくのかというお話を今日は